

河野進 2011年までの論文リスト

I. 査読論文（審査付）

I.1. 学術論文

- [1] 石川俊介, 岡田勇佑, 坂下雅信, 河野進: 曲げ変形が卓越する有開口 RC 造耐震壁の終局性能評価, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 33, No.2, pp. 463-468, 2011.
- [2] 狩野芳規, 河野進, 岸本一蔵: 曲げ変形が卓越する PC 部材の断面解析による性能評価, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 33, No.2, pp. 535-540, 2011.
- [3] 坂下雅信, 河野進, 西山峰広, 田中仁史, 渡邊史夫: 杭基礎で支持された曲げ降伏型連層耐震壁の地震時抵抗機構 その 1 実験試験体を用いた検証とモデル化, 日本建築学会構造系論文集, Vol. 75, No.654, pp. 1491-1500, 2010.
- [4] 田中佑樹, 佐藤尚隆, 坂下雅信, 河野進: 混合より線を用いた外付け鉄骨フレームによる耐震補強工法, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 32, No.2, pp. 979-984, 2010.
- [5] 坂下雅信, 河野進, 林芝英, 八田有輝: 偏心圧縮を受ける超高強度コンクリート柱の曲げ性状に関する実験的研究, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 32, No.2, pp. 565-570, 2010.
- [6] 阪本康平, 稲田和馬, 坂下雅信, 河野進: L型断面を有する RC 造コア壁の曲げせん断性状, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 32, No.2, pp. 385-390, 2010.
- [7] 土井公人, 坂下雅信, 河野進, 田中仁史: 千鳥開口を有する RC 造連層耐震壁のせん断耐力評価に関する研究, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 32, No.2, pp. 355-360, 2010.
- [8] 李在満, 谷昌典, 坂下雅信, 河野進: 高強度せん断補強筋を有するプレキャストプレストレストコンクリート梁のせん断斜張力破壊に関する研究, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 32, No.2, pp. 493-498, 2010.
- [9] 内山元希, 長谷川弘明, 坂下雅信, 河野進: 785MPa級のせん断補強筋を用いた PCaPC 柱のせん断性状に関する実験的研究, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 32, No.2, pp. 487-492, 2010.
- [10] 李在満, 谷昌典, 坂下雅信, 河野進, 西山峰広: 高強度せん断補強筋を用いたプレキャストプレストレストコンクリート梁の曲げせん断性状に関する研究, 日本建築学会構造系論文集, Vol. 75, No.653, pp. 1335-1342, 2010.
- [11] Bechtoula H., Kono S., Watanabe F.: Seismic performance of high strength reinforced concrete columns, Structural Engineering and Mechanics, Techno Press, Vol. 31, No.6, pp. 697-716, 2009.
- [12] Kono S., Katayama T.: Seismic Retrofit of Reinforced Concrete Building Structures with Prestressed Braces, Journal of Advanced Concrete Technology, JCI, Vol. 7, No.3, pp. 337-346, 2009.
- [13] Ichioka Y., Kono S., Nishiyama M., Watanabe F.: Hybrid System Using Precast Prestressed Frame with Corrugated Steel Panel Damper, Journal of Advanced Concrete Technology, JCI, Vol. 7, No.3, pp. 297-306, 2009.
- [14] 市岡有香子, 河野進, 渡邊史夫: PC 鋼より線の付着履歴特性を考慮した圧着型 PCaPC 曲げ部材の FEM 解析, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 31, No.2, pp. 541-546, 2009.
- [15] 土井公人, 坂下雅信, 河野進, 田中仁史: 開口が偏在する RC 造連層耐震壁のせん断性状に関する研究, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 31, No.2, pp. 421-426, 2009.
- [16] 稲田和馬, 坂下雅信, 河野進, 佐藤尚隆: L字型断面を有する鉄筋コンクリート造耐震壁の曲げ特性, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 31, No.2, pp. 451-456, 2009.
- [17] 市岡有香子, 河野進, 太田義弘: 波形鋼板ダンパー付プレキャスト PC 架構の力学的性状に関する研究, 日本建築学会構造工学論文集, Vol. 54B, pp. 479-484, 2008.
- [18] 王激揚, 河野進, 坂下雅信, 田中仁史: 偏在開口を有する RC 連層耐震壁のマクロモデルに関する研究, 日本建築学会構造工学論文集, Vol. 54B, pp. 411-416, 2008.
- [19] 笠直介, 市岡有香子, 河野進, 佐藤尚隆: エネルギー消費能力を有する PC 緊張材の開発と RC 構造物にダンパーとして適用した場合の地震応答評価, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 30, No.3, pp. 1099-1104, 2008.
- [20] 坂下雅信, 河野進, 渡邊史夫, 田中仁史: 杭基礎によって支持される曲げ降伏型 RC 造連層耐震壁のマクロモデルを用いた変形機構の解明, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 30, No.3, pp. 451-456, 2008.

- [21] 森恭平, 藁科誠, 坂下雅信, 河野進: 偏在開口を有する RC 造連層耐震壁の耐震性能に関する研究, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 30, No.3, pp. 433-438, 2008.
- [22] 河野進, 柏井康彦, 市岡有香子, 太田義弘, 渡邊史夫: 波形鋼板ウェブ耐震壁を有する RC 架構の耐震性能と鋼板の定着, 日本建築学会構造工学論文集, Vol. 53B, pp. 115-120, 2007.
- [23] 市岡有香子, 河野進, 西山峰広, 渡邊史夫, 荒金勝: 混合より線を緊張材とする圧着型片持ち梁の力学的性状に関する研究, 日本建築学会構造工学論文集, Vol. 53B, pp. 131-136, 2007.
- [24] 坂下雅信, 村上恭平, 河野進, 田中仁史, 渡邊史夫: 基礎の浮き上がり挙動を許容する付帯フレーム付き連層壁構造の損傷評価に関する研究, 日本建築学会構造工学論文集, Vol. 53B, pp. 101-106, 2007.
- [25] 帖佐和人, 柏井康彦, 市岡有香子, 河野進: 波形鋼板を耐震壁として利用した RC 門型架構の力学性状に関する研究, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 29, No.3, pp. 295-300, 2007.
- [26] 市岡有香子, 南尚孝, 河野進, 太田義弘: 波形鋼板を RC 架構においてダンパーとして用いるための基礎的研究, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 29, No.3, pp. 1069-1074, 2007.
- [27] 河野進, 坂下雅信, 卜部藍, 田中仁史: PCa 耐震壁, 基礎梁, 杭の地震時相互作用を考慮した水平力抵抗機構, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 29, No.3, pp. 355-360, 2007.
- [28] 小田衛, 金尾伊織, 河野進, 渡邊史夫: PC 混合より線をエネルギー消費要素に用いた RC 架構の耐震性能, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 29, No.3, pp. 937-942, 2007.
- [29] 藁科誠, 坂下雅信, 河野進, 田中仁史: 開口率の異なる偏在開口を有する連層耐震壁のせん断耐力評価, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 29, No.3, pp. 331-336, 2007.
- [30] 河野進, 松田拓己, 渡邊史夫: 自己圧着コンクリートブレースを用いた RC 架構の耐震補強効果, 日本建築学会構造工学論文集, Vol. 52B, pp. 273-278, 2006.
- [31] 市岡有香子, 河野進, 西山峰広, 渡邊史夫, 荒金勝: 混合より線を用いた PCaPC 門型架構の力学的性状に関する研究, 日本建築学会構造工学論文集, Vol. 52B, pp. 279-284, 2006.
- [32] Bechtoula H., Kono S., Watanabe F.: Load redistribution at the first story of a mid-rise RC frame building, コンクリート工学年次論文報告集, Vol. 28, No. 2, pp. 415-450, 2006.
- [33] 安富陽子, 河野進, 渡邊史夫: 繰返し荷重を受ける RC 柱の損傷評価に関する研究, コンクリート工学年次論文報告集, Vol. 28, No. 2, pp. 211-216, 2006.
- [34] 坂下雅信, 卜部藍, 河野進, 田中仁史: 25%試験体を用いた RC 造連層耐震壁, 基礎梁, 杭の地震時相互作用を考慮した水平力抵抗機構の解明, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 28, No. 2, pp. 439-444, 2006.
- [35] 卜部藍, 坂下雅信, 河野進, 田中仁史: 鉄筋コンクリート造連層耐震壁のひび割れ幅の評価法, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 28, No. 2, pp. 463-468, 2006.
- [36] 市岡有香子, 南尚孝, 河野進, 荒金勝: 緊張材に混合より線を用いた PCaPC 片持ち梁の力学的性状に関する研究, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 28, 2, pp. 499-504, 2006.
- [37] 南尚孝, 市岡有香子, 河野進, 荒金勝: アンボンドより線および混合より線を用いた PC 部材のひび割れ性状に関する研究, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 28, No. 2, pp. 517-522, 2006.
- [38] 松田拓己, 渡邊史夫, 河野進, 高尾和弘: 自己圧着ブレースで補強した RC 造架構が全体曲げ崩壊型となる場合の耐震性能, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 28, No. 2, pp. 1087-1092, 2006.
- [39] Kono S., Bechtoula H., Sakashita M., Tanaka H., Watanabe F., Eberhard M.: Damage Assessment of Reinforced Concrete Columns Under High Axial Loading, Special Publication, American Concrete Institute, SP237-11, pp. 165-176, 2006.
- [40] Bechtoula H., Sakashita M., Kono S., Watanabe F., Eberhard M., O: Cyclic Performance of Lower Stories of Mid-Rise Reinforced Concrete Frame Buildings, Structural Journal, American Concrete Institute, Vol. 103, No. 4, pp. 513-518, 2006.
- [41] Bechtoula H., Sakashita M., Kono S., Watanabe F.: Seismic performance of 1/4-scale RC frames subjected to axial and cyclic reversed lateral loads, Computers and Concrete, Techno-Press, Vol. 2, No. 2, pp. 147-164, 2005.
- [42] 安富陽子, 河野進, 下澤正道, 渡邊史夫: 一定軸力を受ける RC 柱の残留ひび割れの定量化, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 27, No. 2, pp. 259-264, 2005.
- [43] 柏井康彦, 河野進, 渡邊史夫: 断面解析を用いた RC 部材の損傷度推定法の確立, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 27, No. 2, pp. 265-270, 2005.
- [44] 卜部藍, 坂下雅信, 河野進, 田中仁史: RC 造連層耐震壁, 基礎梁, 杭の地震時相互作用を考慮した水平力抵抗機構の解明, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 27, No. 2, pp. 493-498,

- 2005.
- [45] 渡邊有香子, 河野進, 西山峰広, 荒金勝: 混合より線を用いた PCaPC 梁の力学的性状に関する研究, コンクリート工学年次論文報告集, Vol. 27, No. 2, pp. 571-576, 2005.
- [46] 坂下雅信, 河野進, 渡邊史夫: RC 造骨組構造物における補修前後の性能比較に関する研究, コンクリート工学年次論文報告集, Vol. 27, No. 2, pp. 1525-1530, 2005.
- [47] 坂下雅信, 河野進, 田中仁史, 渡邊史夫: 論文 RC 造連層耐震壁, 基礎梁, 杭の地震時相互作用を考慮した水平力抵抗機構の解明, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 26, No. 3, pp. 529-534, 2004.
- [48] Bechtoula H., Sakashita M., Kono S., Watanabe F.: Seismic performance of frame under large cyclic deformation and axial load variation, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 26, No. 2, pp. 523-528, 2004.
- [49] Kono S., Tanaka H., Watanabe F.: Interface shear transfer for high strength concrete and high strength shear friction reinforcement, High Performance Materials in Bridges, ASCE Special Publication, pp. 319-328, 2003.
- [50] Bechtoula H., Sakashita M., Kono S., Watanabe F.: Effect of cycle number on the envelope curve and damage progress for large scale RC columns under multiaxial loadings, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 25, No. 3, pp. 355-360, 2003.
- [51] 河野進, Bechtoula H., 角徹三, 渡邊史夫: 軸力と2方向曲げを受ける実大 RC 柱の損傷評価, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 24, No. 3, pp. 235-240, 2002.
- [52] 足立将人, 西山峰広, 河野進: PC 鋼より線の付着応力-すべり-ひずみ関係に関する実験的研究, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 24, No. 3, pp. 661-666, 2002.
- [53] 岳偉, 足立将人, 西山峰広, 河野進: PC 梁柱接合部の力学的性状に及ぼす鋼材種別の影響, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 24, No. 3, pp. 625-630, 2002.
- [54] 松野一成, 河野進, 角徹三: 連続繊維シートによる RC 部材の付着割裂強度増大効果第1報付着強度式の提案, 日本建築学会構造系論文集, 日本建築学会, No. 548, pp. 95-100, 2001.
- [55] 河野進, 川西泰一郎, 田中仁史, 渡邊史夫: 高強度コンクリートを用いた接合面におけるせん断力伝達性能の評価, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 23, No. 3, pp. 697-702, 2001.
- [56] 河野進, 長尾奈宜, 田中仁史: 高強度材料が接合面におけるせん断力伝達性能に与える影響の評価, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 22, No. 3, pp. 901-906, 2000.
- [57] 藤本良, 河野進, 西山峰広, 渡邊史夫: 多軸載荷を受ける RC 柱の履歴特性と損傷評価法に関する研究, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 22, No. 3, pp. 355-361, 2000.
- [58] 松野一成, 河野進, 小幡有香, 角徹三: 連続繊維シートを用いた RC 部材の付着割裂強度算定式の提案, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 22, No. 3, pp. 301-306, 2000.
- [59] Kono S., Matsuno S., Kaku T.: Experimental Study on Bond-Slip Behavior of Longitudinal Bars in RC Beams Confined with FRP Sheets, Special publication SP-188, American Concrete Institute, pp. 333-345, 1999.
- [60] 河野進, 柳田豊彦, 長尾奈宜, 田中仁史: 高強度材料を用いたコンクリート接合面におけるせん断耐力評価, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 21, No. 3, pp. 871-876, 1999.
- [61] 松野一成, 河野進, 小幡有香, 角徹三: 連続繊維シートで補強された RC 部材の付着割裂強度, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 21, No. 3, pp. 1483-1488, 1999.
- [62] 河野進, 柳田豊彦, 田中仁史: 高強度材料を用いた接合面におけるせん断力伝達性能の評価, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 20, No. 3, pp. 631-636, 1998.
- [63] 鶴田真一, 河野進, 角徹三: 付着割裂試験法によるコンクリート打ち継ぎ面の性能評価, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 20, No. 3, pp. 1165-1170, 1998.
- [64] 角徹三, 河野進, 松田啓, 伊藤太平: 炭素繊維で補強された鉄筋コンクリート部材の付着割裂強度, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 20, No. 3, pp. 1189-1194, 1998.
- [65] 河野進, 三牧祐輔, 田中仁史: 繰り返し荷重を受けるプレストレストコンクリート梁・柱圧着接合部の残存せん断耐力, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 19, No. 2, pp. 1185-1190, 1997.
- [66] 渡邊史夫, 河野進, 六車熙: ひびわれ面における骨材のかみ合い作用とそのモデル化, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 11, No. 2, pp. 311-316, 1989.

I. 2. 査読付会議論文

- [1] 内山元希, 坂下雅信, 河野進, 西山峰広: 高強度材料を用いた PCaPC 柱のせん断耐力に関する研究, プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集, PCEA, pp. 71-76, 2010.
- [2] 李在満, 谷昌典, 坂下雅信, 河野進: 高強度せん断補強筋を有するプレキャストプレストレストコンクリート梁のせん断斜張力破壊に関する実験的研究, プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集, PCEA, pp. 77-80, 2010.
- [3] Kono S., Inada K., Sakashita M., Sato Hisataka: Lateral Load Resistance of L-Shaped Core-Walls for Tall Buildings, 3rd International fib Congress, , Washington DC, USA, Paper #613, 2010.
- [4] Ichioka Y., Kono S., Watanabe F.: New Structural Building System with Minimal Residual Seismic Damage, Second International Workshop on Performance, Protection and Strengthening of Structures under Extreme Loading, Aug 19-21, Hayama, Japan, Paper #N066, 2009.
- [5] Sakashita M., Kono S., Watanabe F., Tanaka H.: Simulation of Lateral Force Resisting Behavior of Multi-story Structural Walls, Second International Workshop on Performance, Protection and Strengthening of Structures under Extreme Loading, Aug 19-21, Hayama, Japan, Paper #N064, 2009.
- [6] Doi M., Sakashita M., Kono S., Tanaka H.: Ultimate Shear Capacity of Multi-Story RC Structural Walls with Eccentric Openings, Second International Workshop on Performance, Protection and Strengthening of Structures under Extreme Loading, Aug 19-21, Hayama, Japan, Paper #N105, 2009.
- [7] Kono S., Hasegawa H., Mori K., Ichioka Y., Sakashita M., Watanabe F.: Low cycle fatigue characteristics of high strength concrete, Eighth International Symposium on Utilization of High-Strength and High-Performance Concrete, October 27-29, Tokyo, Vol. 1, pp. 616-621, 2008.
- [8] Kono S., Ichioka Y., Ohta Y., Watanabe F.: Hybrid RC Building Structures with Corrugated Steel Shear Panels, IABSE Congress on Creating and Renewing Urban Structures, Tall Buildings, Bridges and Infrastructure, September 17-19, Chicago, Paper #A-0903, 2008.
- [9] Kono S., Oda M., Watanabe F.: Seismic retrofit of RC structures with prestressed CFT and FRC braces, Eighth Pacific Conference on Earthquake Engineering, Dec 5-7, Singapore, Paper #8PCEE/109, 2007.
- [10] Kono S., Oda M., Watanabe F.: Proposal of a new RC structure seismic retrofit method using prestressed concrete braces, Structural Engineering World Congress - 2007, Nov 2-7, 2007, Bangalore, India, Paper #123, 2007.
- [67] 市岡有香子, 河野進, 渡邊史夫, 太田義弘: 波形鋼板を用いた履歴型ダンパー付 PCaPC 架構の力学性状, プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集, PCEA, pp. 227-232, 2007.
- [68] 小田衛, 金尾伊織, 河野進, 渡邊史夫: CFT および FRC を用いた自己圧着型耐震補強ブレース工法の研究, プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集, PCEA, pp. 245-250, 2007.
- [11] Kono S., Ichioka Y., Ohta Y., Watanabe F.: Seismic Performance of Hybrid System with Corrugated Steel Shear Panel and RC Frame, First International Workshop on Performance, Protection and Strengthening of Structures under Extreme Loading, Aug 20 - 22, Whistler, Canada, Paper #JPN15, 2007.
- [12] Kono S., Watanabe F.: Seismic retrofit using precast prestressed concrete braces, 8th US National Conference on Earthquake Engineering, Disc1, Paper #8NCEE-00063, 2006.
- [13] Kono S., Sakashita M., Tanaka H.: Seismic Force Resisting Mechanism of a Multi-Story Structural Wall Supported by Piles, 8th US National Conference on Earthquake Engineering, Disc1, Paper #8NCEE-00063, 2006.
- [14] Kono S., Watanabe F.: Seismic Performance of RC Structures Strengthened with Precast Prestressed Concrete Braces, 2nd International fib Congress, June 5-8, Naples, Italy, Paper #9-36, 2006.
- [15] Ichioka Y., Kono S., Watanabe F., Nishiyama M., Arakane M.: Seismic Behavior of Precast Prestressed Concrete Members with Graded Composite Strands, 2nd International fib Congress, June 5-8, Naples, Italy, Paper #14-17, 2006.
- [16] Bechtoula H., Kono S., Watanabe F.: Seismic Design Proposal Based on a Study on RC Columns and Frame Sub-assembly, 2nd International fib Congress, June 5-8, Naples, Italy, Paper #9-31, 2006.
- [17] Sakashita M., Kono S., Tanaka H.: Lateral Force Resisting Mechanism of a Multi-story Shear Wall and Peripheral Members, 2nd International fib Congress, June 5-8, Naples, Italy, Paper #9-17, 2006.
- [69] 倉本洋, 前田匡樹, 河野進, 楠浩一, 真田靖士, 高橋典之, ファウザン, 山野辺宏治: 2006 年 5 月 27 日インドネシアジャワ島中部地震による建物被害, 第12回日本地震工学シンポジウム論文集, CDROM No.S2-5, pp. 100-105, 2006.
- [18] Kono S., Watanabe F.: Seismic retrofit using precast prestressed concrete braces, Advanced Materials for Construction of Bridges Buildings and other Structures, August #14-19, 2005, Maui, Hawaii, 2005.
- [70] 渡邊有香子, 芹澤好徳, 河野進, 西山峰広: プレキャスト柱および梁をアンボンドより線により圧着した門型架構の力学性状, プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論

- 文集, PCEA, pp. 255-260, 2005.
- [19] Bechtoula H., Sakashita M., Kono S., Watanabe F., Eberhard M.: Simulation of damage progression in lower stories of 11-story building, The 13th World Conference on Earthquake Engineering, Vancouver, August, Paper #3246, 2004.
 - [20] Sakashita M., Bechtoula H., Kono S., Tanaka H., Watanabe F.: A study on the seismic force resisting mechanism of a multi-story shear wall system considering the interaction between wall, slab, foundation beam, and pile elements, The 13th World Conference on Earthquake Engineering, Vancouver, August, Paper #3482, 2004.
 - [21] Watanabe F., Miyazaki S., Tani M., Kono S.: Seismic Strengthening Using Precast Prestressed Concrete Braces, The 13th World Conference on Earthquake Engineering, Vancouver, August, Paper #3406, 2004.
 - [22] Bechtoula H., Sakashita M., Kono S., Watanabe F., Eberhard M.: Experimental and analytical study on 1/4 scale reinforced concrete frames, Concrete under severe conditions: environment and loading, Seoul, June, Vol. 2, pp. 1256-1263, 2004.
 - [23] Sakashita M., Bechtoula H., Kono S., Tanaka H., Watanabe F.: Experiment on the interaction between shear wall, slab, foundation beam, and pile elements to study their combined lateral force resisting mechanism, Concrete under severe conditions: environment and loading, Seoul, June, Vol. 2, pp. 1176-1183, 2004.
 - [24] Lee J.S., Kono S., Watanabe F.: Experimental study on the shear behavior of deep beams indirectly loaded by transverse beams, Concrete under severe conditions: environment and loading, Seoul, June, Vol. 2, pp. 1091-1098, 2004.
 - [25] Kono S., Arai Y., Bechtoula H., Watanabe F.: Damage assessment of reinforced concrete columns under high axial loading, International Conference on Performance of Construction Materials, Cairo, Vol. 1, pp. 291-300, 2003.
 - [26] Kono S., Bechtoula H., Sakashita M., Tanaka H., Watanabe F., Eberhard M.: Damage assessment of reinforced concrete columns under high axial loading, US-Japan-Europe workshop on Simulation of Collapse of Concrete Structures: from Research to Practice, November 2 to 4, Maui Prince Hotel in Makena, Maui, 2003.
 - [27] Kono S., Bechtoula H., Watanabe F.: Damage evaluation of reinforced concrete columns under large axial load and lateral deformation, The First FIB Congress 2002, 1, pp. 279-286 Session 6, 2002.
 - [28] Kaku T., Kono S., Matsuno K.: Bond Strength of Reinforced Concrete Members Confined with Fiber Reinforced Polymer Sheet, The First FIB Congress 2002, 1, pp. 233-242 Session 6, 2002.
 - [29] Kono S., Watanabe F.: Damage evaluation of reinforced concrete columns under multiaxial cyclic loadings, Concrete under severe conditions: environment and loading, 2, pp. 1947-1954, 2001.
 - [30] Kono S., Watanabe F., Kajitani M.: Stress-Strain Relation of Confined Concrete under Dynamic Loading, Fracture Mechanics of Concrete Structures, pp. 585-592, 2001.
 - [31] Kono S., Tanaka H.: Interface shear transfer for high strength concrete and high strength reinforcement,, 12th World Conference on Earthquake Engineering, Paper #641, 2000.
 - [32] Kono S., Matsuno S., Kaku T.: Bond-Slip behavior of longitudinal reinforcing bars confined with FRP sheets, 12th World Conference on Earthquake Engineering, Paper #642, 2000.
 - [33] Kono S., Tsuruda S., Kaku T.: Evaluation of bond behavior at the interface between two different concretes, Fracture Mechanics of Concrete Structures, FRAMCOS, pp. 1852-1861, 1998.
 - [34] Hawkins N.M., Kono S.: Shear strength evaluations of reinforced concrete beams, Fracture Mechanics of Concrete Structures, FRAMCOS, pp. 1429-1440, 1998.
 - [35] Kono S., Inazumi M., Kaku T.: Evaluation of Confining Effects of CFRP Sheets on Reinforced Concrete Members, Second International Conference on Composites in Infrastructure, ICCI, I, pp. 343-355, 1998.
 - [36] Kono S., Inazumi M., Kaku T.: Bond Splitting Behavior of Reinforced Concrete Members Confined with CFRP Sheets, Third International Symposium on Non-Metallic (FRP) Reinforcement for Concrete Structures, JCI, pp. 373-380, 1997.
 - [37] Kono S., Hawkins N.M., Kobayashi A.S.: Using Fracture Mechanics Concepts to Predict the Shear Strength of Concrete Structures, Fracture Mechanics of Concrete Structures, FRAMCOS, III, pp. 1707-1720, 1995.
 - [38] Hawkins N.M., Kono S.: Concrete design and fracture mechanics, Proceedings of Symposium on Fracture Mechanics and Life Management of Materials and Structures, 1994.

I. 3. 会議論文（要約の査読付）

- [1] Wang J., Sakashita M., Kono S., Tanaka H., Warashina M.: A Macro Model for Reinforced Concrete Structural Walls Having Various Opening Ratios, The 14th World Conference on Earthquake Engineering, October 12-17, 2008, Beijing, China, Paper #05-01-0105, 2008.
- [2] Sakashita M., Watanabe F., Kono S., Tanaka H.: Macro Model Simulating the Seismic Force Resisting Mechanism of Multi-Story Shearwalls Supported by Piles, The 14th World Conference on Earthquake Engineering, October 12-17, 2008, Beijing, China, Paper #14-0143, 2008.
- [3] Tanaka Y., Ichioka Y., Kono S., Ohta Y., Watanabe F.: Precast Prestressed Portal Frames with Corrugated Steel Panel Dampers, The 14th World Conference on Earthquake Engineering, October 12-17, 2008, Beijing, China, Paper # 12-P01-0123, 2008.
- [4] Doi M., Ichioka Y., Ohata Y., Kono S., Watanabe F.: Seismic Behavior of Hybrid System with Corrugated Steel Shear Panel and RC Frame, The 14th World Conference on Earthquake Engineering, October 12-17, 2008, Beijing, China, Paper #12-01-0122, 2008.
- [5] Hasegawa H., Sakashita M., Urabe A., Kono S., Tanaka H., Watanabe F.: Seismic Force Resisting Mechanism of the Multi-Story Precast Concrete Shear wall Supported on Piles, The 14th World Conference on Earthquake Engineering, October 12-17, 2008, Beijing, China, Paper #12-01-0124, 2008.
- [6] Mori K., Murakami K., Sakashita M., Kono S., Tanaka H.: Seismic Performance of Multi-Story Shearwall with an Adjacent Frame Considering Uplift of Foundation, The 14th World Conference on Earthquake Engineering, October 12-17, 2008, Beijing, China, Paper #05-01-0242, 2008.
- [7] Inada K., Chosa K., Sato H., Kono S., Watanabe F.: Seismic Performance of RC L-Shaped Core Structural Walls, The 14th World Conference on Earthquake Engineering, October 12-17, 2008, Beijing, China, Paper #12-01-0134, 2008.
- [8] Oda M., Kono S., Watanabe F.: Seismic Retrofit of RC Buildings with Prestressed Precast CFT and FRC Braces, The 14th World Conference on Earthquake Engineering, October 12-17, 2008, Beijing, China, Paper #S15-028, 2008.
- [9] Kono S., Doi M., Lee J., Tanaka H.: Seismic Retrofit of RC Members Using FRP with Very Low Young's Modulus, The 14th World Conference on Earthquake Engineering, October 12-17, 2008, Beijing, China, Paper #05-03-0120, 2008.
- [10] Warashina M., Kono S., Sakashita M., Tanaka H.: Shear Behavior of Multi-Story RC Structural Walls with Eccentric Openings, The 14th World Conference on Earthquake Engineering, October 12-17, 2008, Beijing, China, Paper #S15-029, 2008.
- [11] Lee J., Kono S., Watanabe F., Cheong Y.: Softening Behavior of RC Columns under Cyclic Loading, The 14th World Conference on Earthquake Engineering, October 12-17, 2008, Beijing, China, Paper #05-03-0051, 2008.
- [12] Ryu N., Ichioka Y., Nishiyama M., Kono S., Watanabe F.: Use of Graded Composite Strands in PCAPC Structures for Better Seismic Performance, The 14th World Conference on Earthquake Engineering, October 12-17, 2008, Beijing, China, Paper #12-03-0077, 2008.
- [13] Ichioka Y., Kono S., Watanabe F.: Structural System Enabling Prompt Recovery after Earthquakes, The 14th World Conference on Earthquake Engineering, October 12-17, 2008, Beijing, China, Paper #05-06-0080, 2008.
- [14] Kono S., Oda M., Watanabe F.: Use of CFT Braces for Seismic Retrofit of Building Structures, International Conference on Earthquake Engineering and Disaster Mitigation - 2008, April 14-15, 2008, Jakarta, Indonesia, Paper #053. 2008.

II. 総説

II.1. 規基準および報告書

- [1] 河野進他: 鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説 12条～14条, 日本建築学会, 2010.
- [2] 河野進: 鉄筋コンクリート X 形配筋部材設計施工指針・同解説 付録 2, 日本建築学会, 2010.
- [3] Kono S., Shiohara H., Kishimoto I.: Damage of Buildings in the Wenchuan, Sichuan Province, China, Earthquake of May 12, 2008, Investigation report of the May 12th 2008, Wenchuan earthquake, China, Grant-in-Aid for Special Purposes of 2008, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT), Japan No 20900002, pp. 145-170, 2009.
- [4] 白井伸明, 中村光, 衣笠秀行, 河野進, 小林薫: 委員会報告被災建造物の復旧性能評価研究委員会, コンクリート工学年次論文報告集, JCI, Vol. 29, No.1, pp. 1-8, 2007.
- [5] 河野進他: 被災建造物の補修補強後の耐力変形性状研究委員会報告書 3章, 日本コンクリート工学協会 研究委員会報告書, 2007.
- [6] 河野進, 他 共同執筆: 2006年ジャワ島中部地震における被害報告書, 日本建築学会災害委員会, pp. 161-228, 2006.
- [7] 河野進, 斉藤成彦: 被災建造物の補修補強後の耐力変形性状研究委員会報告書 2.1節, 日本コンクリート工学協会 研究委員会報告書, 2005.
- [8] 河野進, 西山峰広: 付着が拓く PC 構造の近未来 —構造性能評価における鋼材付着の役割— 5章, プレストレストコンクリート技術協会 研究委員会報告書, 2005.
- [9] 河野進: プレストレスト (鉄筋) コンクリート部材の終局性能評価手法 —考え方の基礎から最前線まで— 4章, 日本建築学会 PC 部材終局性能・設計法小委員会報告書, 2005.
- [10] 河野進他: 塑性域の繰り返し耐力劣化と耐震性能研究委員会報告書 4.3.5項, 日本コンクリート工学協会 研究委員会報告書, 2004.
- [11] Kono S., Tanaka H.: Chapter 7. Building Damage in a comprehensive survey of the 26 January 2001 Earthquake (Mw 7.7) in the State of Gujarat, Research Report on Natural Disasters, 2001.
- [12] 河野進, 田中仁史: 鉄筋コンクリート建造物の被害および インドの建築法規, インド西部地震被害調査報告書, 2001.
- [13] 河野進, 田中仁史: 2001年1月26日インド西部地震における建築物の被害と補修, 建築防災, pp. 41-46, 2001.
- [14] TKM 調査団: 2001年1月26日インド西部地震, 2001年1月26日インド西部地震 被害調査報告書, 2001.
- [15] 河野進, 藤井栄: コンクリート工学の教育ツールに関する研究委員会委員会報告書 3.7節および 7.2節, 日本コンクリート工学協会 研究委員会報告書, 2001.
- [16] 河野進, 田中仁史, 岡本晴彦: プレストレスト (鉄筋) コンクリート構造部材の設計法 —現状と将来— 6.2節, 日本建築学会 PC 部材力学挙動予測法小委員会報告書, 2000.
- [17] 河野進他: 日本コンクリート工学協会近畿支部コンクリートの構成則と応用委員会報告書, 日本コンクリート工学協会近畿支部 研究委員会報告書, 2000.
- [18] 日本建築学会プレストレストコンクリート耐震設計小委員会: プレストレストコンクリート構造 基礎原理から設計への応用, 2000.
- [19] 日本建築学会プレストレストコンクリート耐震設計小委員会他: プレストレストコンクリート構造の設計, 2000.
- [20] 田中仁史, Jose R., 河野進, Marc E.: ニュージーランドおよび米国の震害調査について, 日本建築学会大会災害部門研究協議会資料 震害調査の意義と方法 -変遷と将来-, pp. 39-46, 2000.
- [21] 河野進, 田中仁史: 鉄筋コンクリート方式接合の力学的挙動と設計法の合理化, プレストレスト (鉄筋) コンクリート構造部材の設計法 —現状と将来— 第6章2節, pp. 269-275, 2000.
- [22] 河野進(分担執筆): Chapter 6 Damage of buildings, Report on the Damage Investigation of 1999 Kocaeli Earthquake in Turkey, Architecture Institute of Japan, 2000.
- [23] 田中仁史, 河野進: 部材接合面の性能評価、PC 構造設計・施工指針の作成 最終年度研究報告書 II-2, 構造性能評価 WG 研究成果 第4章, pp. II-2-90～125, 1999.
- [24] Japan-HongKong Joint Reconnaissance Team: 1999 Taiwan Jiji Earthquake, [http:// www. rc. archi. kyoto-u. ac. jp/ publication/](http://www.rc.archi.kyoto-u.ac.jp/publication/), 1999.
- [25] 田中仁史, 河野進: 部材接合面の性能評価、PC 構造設計・施工指針の作成 平成9年度研究報告書 II, 構造性能評価 WG 研究成果 第4章, pp. II-6-61～77, 1998.
- [26] 田中仁史, 河野進: 弾性域から塑性域にわたっての曲げ履歴を受ける圧着接合面のせん断伝達、

PC 構造設計・施工指針の作成 平成 8 年度研究報告書 II, 構造性能評価 WG 研究成果 第 4 章 3 節, pp. II-2-60~88, 1997.

- [27] Foutch D., Thewalt R.C., Ramirez J., Kono S.: Seismological and Engineering Aspects of the January 17, 1995, Hyogoken-Nanbu (Kobe) Earthquake, Earthquake Engineering Research Center (USA), 1995.
- [28] 渡邊史夫, 河野進: 鉄筋コンクリート構造の FEM 解析の精度向上に必要な基礎実験と解析モデルの開発研究 —第 8 章ひび割れ面の骨材のかみ合い作用, 文部省科学研究費研究報告書, pp. 156-195, 1988.

II.2. 梗概およびその他の会議論文 (査読無し)

- [1] 山本惇也, 石川俊介, 河野進, 坂下雅信, 慶祐一, 太田義弘: RC 耐震壁における目地のせん断剛性・せん断強度に及ぼす影響に関する実験的研究 (その 1 実験概要) (その 2 実験結果と考察), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 367-370, 2010.
- [2] 八田有輝, 内山元希, 長谷川弘明, 坂下雅信, 谷昌典, 河野進, 西山峰広: 高強度せん断補強筋を用いた PCaPC 柱のせん断性状に関する研究 (その 1 実験概要) (その 2 実験考察), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 833-836, 2010.
- [3] 狩野芳規, 李在満, 坂下雅信, 谷昌典, 河野進, 西山峰広: 高強度せん断補強筋を有する PCaPC 梁のせん断斜張力破壊耐力評価に関する研究 (その 1 実験概要)(その 2 実験結果及び考察), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 825-828, 2010.
- [4] 阪本康平, 稲田和馬, 坂下雅信, 河野進, 佐藤尚隆, 中澤敏樹: L 型断面を有する RC 造コア壁の曲げせん断性状に関する研究 (その 1 : 実験概要及び結果) (その 2 : 有限要素法解析), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 345-348, 2010.
- [5] 佐藤尚隆, 田中佑樹, 多田元英, 坂下雅信, 金尾伊織, 向出静司, 市来隆志, 河野進, 加藤博人: 混合より線を用いた損傷制御型門型架構の擬似動的載荷実験 (その 1 : 実験概要) (その 2 : 実験結果と解析結果の比較), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 525-528, 2010.
- [6] 坂下雅信, 土井公人, 岡田勇佑, 河野進, 田中仁史, 加藤博人, 諏訪田晴彦, 福山洋: 偏在開口を有する RC 造連層耐震壁のせん断性状に関する研究 (その 6 : 第 3 シリーズの実験概要・結果) (その 7 : FEM 解析, 計算式によるせん断耐力評価) (その 8 : 残留せん断ひび割れ幅の評価), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 361-366, 2010.
- [7] 尹亨在, 林芝英, 坂下雅信, 河野進, 八田有輝, 西山峰広: 130MPa 級超高強度コンクリート柱の偏心圧縮性状に関する実験的研究 (その 1 : 実験概要) (その 2 : 実験結果), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 303-306, 2010.
- [8] 藤岡将利, 河野進, 坂下雅信, 田中仁史, 楠寿博, 木村秀樹: 実大プレストレスト集成材梁の曲げ挙動に関する実験的研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 63-64, 2010.
- [9] 龍田祐貴, 河野進, 金尾伊織, 佐藤尚隆: ダンパー型ケーブルの吊構造への適応, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 1187-1188, 2010.
- [10] 増田安彦, 永井覚, 河野進: プレストレストコンクリート部材の終局せん断耐力と変形性能, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 835-836, 2009.
- [11] 市岡有香子, 河野進, 西山峰広, 渡邊史夫: PC 鋼材の付着すべりモデルが圧着型 PCaPC 部材の履歴復元力特性に与える影響, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 785-786, 2009.
- [12] 岡村拓哉, 森恭平, 市岡有香子, 坂下雅信, 谷昌典, 河野進, 西山峰広: 高性能材料を用いた PCaPC 柱の曲げせん断性状に関する研究 (その 1 実験概要) (その 2 実験考察), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 843-846, 2009.
- [13] 李在満, 谷昌典, 山本惇也, 仲輝, 坂下雅信, 河野進, 西山峰広: 高強度あばら筋を用いた PCaPC 梁のせん断耐力評価に関する研究(その 1 実験概要)(その 2 実験結果)(その 3 せん断耐力評価), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 837-842, 2009.
- [14] 石川俊介, 田中佑樹, 市岡有香子, 佐藤尚隆, 河野進: ハイブリット PC 鋼棒を軸降伏型ダンパーとして用いるための基礎的研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 499-500, 2009.
- [15] 稲田和馬, 坂下雅信, 河野進, 佐藤尚隆, 中澤敏樹: L 字型断面を有する鉄筋コンクリート造耐震壁の耐震性能に関する実験的研究 (その 2 : 数値解析), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 443-444, 2009.
- [16] 土井公人, 坂下雅信, 河野進, 田中仁史: FEM モデルを用いた偏在開口を有する耐震壁のせん断

- 耐力評価, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 105-108, 2009.
- [17] 雨田宏子, 長谷川弘明, 市岡有香子, 坂下雅信, 河野進, 田中仁史: ポリケトン製連続繊維シートを用いた RC 柱の耐震補強に関する実験的研究 (その 1: 実験概要) (その 2: 実験結果の考察), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 673-676, 2009.
- [18] 田中佑樹, 佐藤尚隆, 金尾伊織, 市岡有香子, 坂下雅信, 市来隆志, 河野進: 混合より線を用いた損傷制御型門型架構の静的繰返し実験, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 1173-1174, 2009.
- [19] Wang J., Sakashita M., Kono S., Tanaka H.: Elasto-plastic Analysis of Reinforced Concrete Shear Wall with Openings using a Macro model, Proceedings of International Conference on Earthquake Engineering----The 1st Anniversary of Wenchuan Earthquake, pp. 196-202, 2009.
- [20] 田中佑樹, 佐藤尚隆, 笠直介, 金尾伊織, 市岡有香子, 坂下雅信, 河野進, 渡邊史夫: 混合より線を用いた損傷制御型構造形式の開発基礎研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 1195-1196, 2008.
- [21] 小田衛, 松本忠史, 片山丈士, 河野進, 渡邊史夫, 他: RB 工法を用いた RC 架構の耐震補強に関する研究 (その 1: 実験的検証) (その 2: 設計・施工法と適用例), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 57-64, 2008.
- [22] 稲田和馬, 帖佐和人, 坂下雅信, 河野進, 渡邊史夫, 佐藤尚隆, 中澤敏樹: L 字型断面を有する鉄筋コンクリート造耐震壁の耐震性能に関する実験的研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 347-348, 2008.
- [23] 鈴木紀雄, 是永健好, 笠直介, 小田衛, 河野進, 渡邊史夫, 他: 高強度材料を用いた鉄筋コンクリート柱の曲げ耐力における寸法効果 (その 1: 実験概要) (その 2: 実験結果の概略) (その 3: 実験結果に基づいた考察) (その 4: 実験結果と計算モデルとの比較), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 525-562, 2008.
- [24] 是永健好, 小室努, 今井和正, 村松晃次, 鈴木紀雄, 丸田誠, 渡邊史夫, 河野進: 高強度 RC 柱に用いるコンクリートの寸法効果, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 521-522, 2008.
- [25] 坂下雅信, 渡邊史夫, 河野進, 田中仁史: 耐震壁下に位置し杭を有する基礎梁のマクロモデルによる数値解析 (その 2: 基礎梁の損傷と耐震壁の変形の関連性), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 415-416, 2008.
- [26] 市岡有香子, 河野進, 渡邊史夫: PC より線の付着履歴モデルを組み込んだ圧着型 PCaPC 片持ち梁の FEM 解析, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 893-894, 2008.
- [27] 森恭平, 藁科誠, 土井公人, 坂下雅信, 河野進, 田中仁史, 渡邊史夫: 偏在開口を有する RC 造連層耐震壁のせん断性状に関する研究 (その 4: 第 2 シリーズの実験概要・結果) (その 5: せん断剛性・耐力の検討, FEM 解析), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 401-404, 2008.
- [28] 土井公人, 河野進, 五十嵐俊一: ポリエステル製繊維シートで拘束した RC 柱の耐震性能に関する実験的研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 763-764, 2008.
- [29] 長谷川弘明, 森恭平, 市岡有香子, 坂下雅信, 河野進, 渡邊史夫: 100MPa を超える高強度コンクリートの低サイクル疲労に関する実験的研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 201-202, 2008.
- [30] 坂下雅信, 河野進, 田中仁史, 渡邊史夫: 耐震壁下に位置し杭を有する基礎梁のマクロモデルによる数値解析 (その 1: 基礎の有無が耐震壁の復元力特性に与える影響), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 691-692, 2007.
- [31] 市岡有香子, 花房広哉, 笠直介, 河野進, 渡邊史夫, 太田義弘: 波形鋼板ダンパーを組み込んだプレキャスト PC 門型架構の力学的性状 (その 1: 部材実験) (その 2: 架構実験) (その 3: 解析とまとめ), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 839-844, 2007.
- [32] 小田衛, 木村廣, 河野進, 渡邊史夫: CFT および FRC を用いた自己圧着型耐震補強ブレース工法の研究 (その 1: 研究背景および実験概要) (その 2: 実験結果および考察), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 545-548, 2007.
- [33] 森恭平, 藁科誠, 王激揚, 帖佐和人, 坂下雅信, 河野進, 田中仁史, 渡邊史夫: 偏在開口を有する RC 造連層耐震壁のせん断性状に関する研究その 1: 実験概要, その 2: 実験結果及びせん断耐力の検討, その 3: Ansys による 3 次元 FEM 解析, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 677-682, 2007.
- [34] 帖佐和人, 河野進, 田中仁史, 松森泰造, 壁谷澤寿海: E-ディフェンスにおける実大 6 層 RC 造建物実験で用いた三分力計の検定, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 389-390, 2007.

- [35] 佐藤尚隆, 小田衛, 金尾伊織, 河野進, 渡邊史夫: PC 混合より線をエネルギー消費要素に用いた RC 架構の耐震性能, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 845-846, 2007.
- [36] 金尾伊織, 松田拓己, 河野進, 渡邊史夫, 荒金勝: エネルギー消費能力を有するストランドの履歴特性, 日本建築学会近畿支部学術講演梗概集構造系, pp. 365-368, 2006.
- [37] 河野進, 渡邊史夫: プレキャスト型自己圧着ブレースを用いた耐震補強技術の開発, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 137-140, 2006.
- [38] 帖佐和人, 柏井康彦, 河野進, 渡邊史夫: 波形鋼板ウェブを耐震壁として用いるための基礎的研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 721-722, 2006.
- [39] 小田衛, 帖佐和人, 河野進, 渡邊史夫: 繰返し荷重を受ける RC 柱の損傷評価に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 393-394, 2006.
- [40] 藁科誠, 前田修宏, 坂下雅信, 河野進, 田中仁史, 渡邊史夫: 基礎の浮上りを考慮した付帯フレーム付連層壁構造の水平力抵抗機構の解明, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 431-432, 2006.
- [41] 松田拓己, 金尾伊織, 河野進, 渡邊史夫, 荒金勝: エネルギー消費能力を有するより線の履歴特性と解析モデル, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 549-550, 2006.
- [42] 南尚孝, 市岡有香子, 河野進, 西山峰広, 渡邊史夫, 荒金勝: アンボンドより線および混合より線を用いた PC 造単純梁のひび割れ性状 (その 1: 実験概要), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 759-760, 2006.
- [43] 市岡有香子, 南尚孝, 河野進, 西山峰広, 渡邊史夫, 荒金勝: アンボンドより線および混合より線を用いた PC 造単純梁のひび割れ性状 (その 2: 実験および解析結果と考察), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 761-762, 2006.
- [44] 卜部藍, 坂下雅信, 河野進, 田中仁史, 渡邊史夫: 一体打ち耐震壁を有する基礎梁の合理的設計法の提案に向けた実験的研究 (その 1: 実験概要), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 147-148, 2006.
- [45] 坂下雅信, 卜部藍, 河野進, 田中仁史, 渡邊史夫: 一体打ち耐震壁を有する基礎梁の合理的設計法の提案に向けた実験的研究 (その 2: 実験結果及び数値解析), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 149-150, 2006.
- [46] 柏井康彦, 河野進, 渡邊史夫: 断面解析を用いた部材の損傷度推定法の確立, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 109-110, 2005.
- [47] 帖佐和人, 安富陽子, 下澤正道, 河野進, 渡邊史夫: RC 片持柱載荷実験による残留ひび割れの定量化, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 117-120, 2005.
- [48] 卜部藍, 村上恭平, 坂下雅信, 河野進, 田中仁史, 渡邊史夫: 現場打ち一体型耐震壁及び PCa 耐震壁を用いた RC 造連層耐震壁, 基礎梁, 杭の地震時相互作用を考慮した水平力抵抗機構の解明, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 403-406, 2005.
- [49] 村上恭平, 柴田茂樹, 松田拓己, 渡邊有香子, 河野進, 渡邊史夫: 自己圧着型耐震補強コンクリートブレース工法の研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 547-552, 2005.
- [50] 前田修宏, 渡邊有香子, 河野進, 西山峰広, 渡邊史夫, 荒金勝: PCaPC 梁に混合より線を用いた場合の力学的性状に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 737-738, 2005.
- [51] 南尚孝, 渡邊有香子, 河野進, 西山峰広, 渡邊史夫, 荒金勝: アンボンドより線および混合より線を用いた PCaPC 門型架構の力学的性状, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, C2, pp. 739-742, 2005.
- [52] 安富陽子, 金尾伊織, 河野進, 渡邊史夫: 1/2 スケール RC 骨組部分架構のひび割れ発生荷重及び幅予測に関する実験的研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, pp. 859-860, 2004.
- [53] Bechtoula H., Sakashita M., Kono S., Watanabe F.: A study on seismic performance of frame subassemblages subjected to axial load variations, 第 5 回構造物の破壊過程解明に基づく地震防災性向上に関するシンポジウム, pp. 199-204, 2004.
- [54] 河野進, 坂下雅信, 卜部藍, 村上恭平, 田中仁史, 渡邊史夫: RC 造連層耐震壁, 基礎梁, 杭の地震時相互作用を考慮した地震時水平抵抗機構の解明, 第 5 回構造物の破壊過程解明に基づく地震防災性向上に関するシンポジウム, pp. 211-214, 2004.
- [55] Lee J., Kono S., Watanabe F.: Shear Strength of Deep Beams Indirectly Loaded by Perpendicular Beams, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, pp. 43-44, 2003.
- [56] 高尾和弘, 坂下雅信, BECHTOULA Hakim, 河野進, 田中仁史, 渡邊史夫: RC 造連層耐震壁, 基礎梁, 杭の地震時相互作用を考慮した終局時破壊機構の解明 — 現場打ち一体型の耐震壁を用いた場合 —, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, pp. 309-312, 2003.

- [57] Bechtoula H., Sakashita M., Kono S., Watanabe F., Eberhard M.: Damage progression in lower stories of 11-story building, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, pp. 841-844, 2003.
- [58] 四宮功詞, 河野進, 渡邊史夫, Eberhard Marc: PRC 造梁・柱接合部における履歴復元力特性のモデル化に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, pp. 1029-1030, 2003.
- [59] Bechtoula H., Kono S., Watanabe F.: Effect of Axial Load Intensity on Plastic Hinge Length and Damage Progress for Large Scale RC Columns during an Earthquake Attack, 第4回構造物の破壊過程解明に基づく地震防災性向上に関するシンポジウム, pp. 171-178, 2003.
- [60] 田中仁史, 河野進, 他: 耐震壁浮き上がり挙動を再現する振動台実験に用いる動的試験デバイスの開発とその特性試験, 文部科学省大都市大震災軽減化特別プロジェクト II 震動台による構造物の耐震性向上研究シンポジウム, pp. 21-25, 2003.
- [61] 坂下雅信, 河野進, 田中仁史: 三次元有限要素法による RC 柱の寸法効果に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, pp. 363-364, 2002.
- [62] 荒井勇作, Bechtoula H., 坂下雅信, 河野進, 渡邊史夫: 多軸載荷を受ける実大 RC 柱のモーメント及び軸ひずみ解析, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, pp. 357-358, 2002.
- [63] Bechtoula H., Arai Y., Sakashita M., Kono S., Watanabe F., Kuramoto H.: Experimental study on real scale columns under vertical and lateral loadings (Part1), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, pp. 359-360, 2002.
- [64] Kono S., Bechtoula H., Arai Y., Sakashita M., Watanabe F., Kuramoto H.: Experimental study on real scale columns under vertical and lateral loadings (Part2), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, pp. 361-362, 2002.
- [65] 吉川敦之, 足立将人, 河野進, 西山峰広: PC 鋼より線の付着応力-すべり-ひずみ関係に関する実験的研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系, pp. 55-56, 2002.
- [66] 河野進, 荒井勇作, 西山峰広, 渡邊史夫, 角徹三: 変動軸力と曲げを同時に受ける鉄筋コンクリート柱の損傷評価, 第3回構造物の破壊過程解明に基づく地震防災性向上に関するシンポジウム, pp. 189-194, 2002.
- [67] 河野進, 田中仁史, 谷口規子: 2001年1月26日インド西部地震における建築物の被害報告(その1), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系構造, IV、C2, pp. 883-884, 2001.
- [68] 田中仁史, 河野進, 谷口規子: 2001年1月26日インド西部地震における建築物の被害報告(その2), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系、構造 IV、C2, pp. 885-886, 2001.
- [69] 吉川敦之, 足立将人, 河野進, 西山峰広: 横圧を受ける PC 鋼より線とグラウト材間の付着特性に関する実験, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系、構造 IV、C2, pp. 951-952, 2001.
- [70] 宮崎覚, 河野進, 渡邊史夫: 歪速度が拘束コンクリートの応力-歪関係に及ぼす影響に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系、構造 IV、C2, pp. 15-16, 2001.
- [71] 樋口真由子, 河野進, 渡邊史夫: プレキャスト部材接合面におけるせん断力伝達機構に関する実験的研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系、構造 IV、C2, pp. 157-158, 2001.
- [72] Bechtoula H., 荒井勇作, 松石長之, 河野進, 渡邊史夫: Size effects on damage progress in RC column under large axial and horizontal cyclic loading (part1), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系、構造 IV、C2, pp. 369-370, 2001.
- [73] 荒井勇作, Bechtoula H., 松石長之, 河野進, 渡邊史夫: Size effects on damage progress in RC column under large axial and horizontal cyclic loading (part2), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系、構造 IV、C2, pp. 371-372, 2001.
- [74] Bechtoula H., 荒井勇作, 河野進, 渡邊史夫: Damage assessment of RC columns under large axial and lateral loadings, コンクリート構造物の靱性設計手法に関するシンポジウム論文集, pp. 263-270, 2001.
- [75] 河野進, 梶谷昌弘, 西山峰広, 渡邊史夫: 歪速度が拘束コンクリートの応力-歪関係に与える影響に関する研究, 第2回構造物の破壊過程解明に基づく地震防災性向上に関するシンポジウム, pp. 159-164, 2001.
- [76] 山崎敬子, 蓑田有香, 松野一成, 河野進, 角徹三: 連続繊維シートで補強された RC 部材の付着割裂強度, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系、構造 IV、C2, pp. 353-354, 2000.
- [77] 河野拓也, 河野進, 田中仁史: 高強度材料を用いた接合面におけるせん断力伝達性能の評価, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系、構造 IV、C2, pp. 885-886, 2000.
- [78] 松石長之, 藤本 良, 河野進, 渡邊史夫: 変動軸力下で大きな曲げ変形を受ける RC 柱の損傷評価法に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系、構造 IV、C2, pp. 149-150, 2000.
- [79] 宮崎覚, 河野進, 足立将人: PRC 梁における履歴復元力特性のループ形状及び等価減衰定数に与

- える影響因子に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系、構造 IV、C2, pp. 981-982, 2000.
- [80] 梶谷昌弘, 河野進, 渡邊史夫: 歪速度が拘束コンクリートの応力-歪関係に及ぼす影響に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系、構造 IV、C2, pp. 617-618, 2000.
- [81] 田中仁史, 樋口真由子, 河野進, 他: 鉄筋コンクリート造建築物の修復費用に基づく地震被災度判定基準の提案と費用の算定 (その 1), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系、構造 IV、C2, pp. 891-892, 2000.
- [82] 樋口真由子, 田中仁史, 河野進, 他: 鉄筋コンクリート造建築物の修復費用に基づく地震被災度判定基準の提案と費用の算定 (その 2), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系、構造 IV、C2, pp. 893-894, 2000.
- [83] 河野進, 藤井栄, 西山峰広, 渡邊史夫: 鉄筋コンクリート部材の損傷評価, 第 1 回構造物の破壊過程解明に基づく地震防災性向上に関するシンポジウム, 2000.
- [84] 藤本良, 池内敏浩, 河野進, 渡邊史夫: 変動軸力下での RC 柱の損傷評価法, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系、構造 IV, pp. 809-810, 1999.
- [85] 小幡有香, 河野進, 松野一成, 角徹三, 小林朗: 炭素繊維シートで補強された RC 部材の付着割裂強度 (その 1. キャンティレバー型試験体の場合), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系、構造 IV, pp. 9-10, 1999.
- [86] 松野一成, 河野進, 小幡有香, 桶谷秀人, 角徹三: 炭素繊維シートで補強された RC 部材の付着割裂強度 (その 3. 付着割裂強度算定式の提案), 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系、構造 IV, pp. 11-12, 1999.
- [87] 柳田豊彦, 河野進, 田中仁史, 長尾奈宜: 高強度材料を用いたコンクリート接合面におけるせん断力伝達性能の評価-その 1, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系、構造 IV, pp. 457-458, 1999.
- [88] 長尾奈宜, 河野進, 田中仁史, 柳田豊彦: 高強度材料を用いたコンクリート接合面におけるせん断力伝達性能の評価-その 2, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系、構造 IV, pp. 459-460, 1999.
- [89] 小幡有香, 角徹三, 河野進, 伊藤太平: 炭素繊維シートで補強された鉄筋コンクリート部材の付着割裂破壊その 1 及びその 2, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系、構造 IV, pp. 951-954, 1998.
- [90] 姜栄成, 宮垣亜希, 田中仁史, 河野進: 実大木質 3 層フレームの静的水平加力実験, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系、構造 IV, 1998.
- [91] 柳田豊彦, 河野進, 田中仁史: コンクリート打ち継ぎ面におけるせん断力伝達性能の評価, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系、構造 IV, pp. 757-758, 1998.
- [92] 鶴田真一, 河野進, 角徹三: コンクリート打ち継ぎ面における応力伝達のモデル化, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系、構造 IV, pp. 521-522, 1998.
- [93] 鶴田真一, 河野進, 角徹三: コンクリート打ち継ぎ面における接着性能のモデル化, 日本建築学会東海支部研究報告集, pp. 253-256, 1997.
- [94] 河野進, 田中仁史: アンボンドプレストレストコンクリート梁・柱圧着接合部の繰り返し荷重下における緊張材張力の変動と残存せん断耐力, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系、構造 IV, pp. 905-906, 1997.
- [95] 伊藤太平, 角徹三, 河野進: 炭素繊維シートによる付着割裂補強効果について, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系、構造 IV, pp. 239-240, 1997.
- [96] 松田啓, 角徹三, 河野進: 炭素繊維シートによるコンクリートの圧縮強度と付着割裂補強増大効果, 日本建築学会大会学術講演梗概集構造系、構造 IV, pp. 241-242, 1997.
- [97] 小宮巖, 角徹三, 河野進: 連続繊維補強筋の付着性能に関する研究-その 2, 日本建築学会東海支部研究報告集, pp. 405-408, 1997.
- [98] 角徹三, 河野進, 松田啓: 炭素繊維シートによる付着割裂破壊抑止効果に関する研究, 日本建築学会東海支部研究報告集, pp. 409-412, 1997.
- [99] Kono S., Hawkins N.M., Kobayashi A.S.: Crack Propagation under Mixed Mode Loading in Plain Concrete - Part I Experimental Investigation -, 日本建築学会東海支部研究報告集, pp. 361-364, 1997.
- [100] Kono S., Hawkins N.M., Kobayashi A.S.: Crack Propagation under Mixed Mode Loading in Plain Concrete - Part II Numeical Investigation -, 日本建築学会東海支部研究報告集, pp. 365-368, 1997.
- [101] Kono S., Hawkins N.M., Kobayashi A.S.: Mixed Mode Fracture of Plain Concrete with Dye Technique, 中部セメントコンクリート工学論文集, 11, pp. 71-80, 1996.
- [102] 河野進, 六車熙, 渡邊史夫, 西山峰広, 星田英俊: 鉄筋コンクリート壁版におけるコンクリート

- 圧縮強度の評価と限界変形（その1），日本建築学会大会学術講演梗概集構造系，pp. 571-572, 1988.
- [103] 西山峰広，六車熙，渡邊史夫，星田英俊，河野進：鉄筋コンクリート壁版におけるコンクリート圧縮強度の評価と限界変形（その2），日本建築学会大会学術講演梗概集構造系，pp. 573-574, 1988.
- [104] 保志場国夫，六車熙，渡邊史夫，河野進：プレストレスト鉄筋コンクリート梁の水中に於ける低サイクル曲げ疲労特性に関する研究 その1：実験方法および実験結果の概要，日本建築学会大会学術講演梗概集構造系，pp. 1109-1110, 1987.
- [105] 河野進，六車熙，渡邊史夫，保志場国夫：プレストレスト鉄筋コンクリート梁の水中に於ける低サイクル曲げ疲労特性に関する研究 その2：生存確率に基づく疲労寿命，日本建築学会大会学術講演梗概集構造系，pp. 1111-1112, 1987.

11.3. 口頭発表

- [1] Kono S., Sakamoto K., Inada K., Sakashita M.: Seismic behavior of L-Shaped Core-Walls, The 8th International Conference on Urban Earthquake Engineering (7CUEE), March 7-8, 2011, Tokyo Institute of Technology, Tokyo, Japan, pp. Paper#04-226, 2011.
- [2] Kono S., Katayama T., Watanabe F.: Seismic Retrofit of RC or SRC Buildings with Prestressed Braces, Joint Conference Proceedings 7th International Conference on Urban Earthquake Engineering (7CUEE) & 5th International Conference on Earthquake Engineering (5ICEE), March 3-5, 2010, Tokyo Institute of Technology, Tokyo, Japan, pp. 735-744, 2010.
- [3] Kono S., Doi M., Lee J., Tanaka H.: Seismic Retrofit of RC Members Using FRP with Very Low Young's Modulus and High Deformation Capability, International Workshop on Seismic Evaluation and Rehabilitation of Reinforced Concrete Structures, March 30th, NCREC, Taipei, 2009.
- [4] Kono S., Doi M., Lee J., Tanaka H.: Seismic Retrofit of RC Members Using FRP with Very Low Young's Modulus and High Deformation Capability, Fifth International Conference on Urban Earthquake Engineering, Tokyo Institute of Technology, March, 2009.
- [5] Kono S., Watanabe F.: Seismic Retrofit of RC Buildings with Prestressed Braces, Fumio Watanabe Symposium, October 24-25, 2008, Kyoto, Japan, pp. 233-240, 2008.
- [6] Sakashita M., Watanabe F., Kono S., Tanaka H.: Macro Model Simulating the Seismic Force Resisting Mechanism of Multi-Story Shearwalls Supported by Piles, Fumio Watanabe Symposium, October 24-25, 2008, Kyoto, Japan, pp. 290-297, 2008.
- [7] Ichioka Y., Kono S., Watanabe F.: Structural System Enabling Prompt Recovery after Earthquakes, Fumio Watanabe Symposium, October 24-25, 2008, Kyoto, Japan, pp. 298-308, 2008.
- [8] 金尾伊織，河野進，渡邊史夫：エネルギー消費能力を有するより線の履歴特性に関する基礎的研究，Fumio Watanabe Symposium, October 24-25, 2008, Kyoto, Japan, pp. 207-210, 2008.
- [9] 河野進：中国四川地震（2008.5.12 14:28）の被害調査報告 成都・都江堰（Dujiangyan），日本建築学会 2008 年中国四川大地震・および 2008 年岩手・宮城内陸地震の被害調査報告会，PD 資料，2008.9.
- [10] Sakashita M., Watanabe F., Kono S., Tanaka H.: Macro Model Simulating the Seismic Force Resisting Mechanism of Multi-Story Shearwalls Supported by Piles, The 10th Japan-Korea-Taiwan Joint Seminar on Earthquake Engineering for Building Structures, pp. 145-152, 2008.
- [11] Ichioka Y., Kono S., Watanabe F.: Structural System Enabling Prompt Recovery after Earthquakes, The 10th Japan-Korea-Taiwan Joint Seminar on Earthquake Engineering for Building Structures, pp. 81-88, 2008.
- [12] 河野進：地震後の早期復旧性能を有する建築構造材料およびシステムの開発，2008 年度 東京工業大学応用セラミックス研究所所長賞授賞式，2008.9.10.
- [13] 河野進：鉄筋コンクリート造建築構造物における損傷制御型構造システムの構築，名城大学高度制震実験・解析研究センター定期講演会，2008.7.29.
- [14] Doi M., Ichioka Y., Ohta Y., Kono S., Watanabe F.: Seismic Behavior of Hybrid System with Corrugated Steel Shear Panel and RC Frame, The 10th Japan-Korea-Taiwan Joint Seminar on Earthquake Engineering for Building Structures, pp. 199-206, 2008.
- [15] Kono S., Ichioka Y., Kashiwai Y., Ohta Y., Watanabe F.: Performance of hybrid system with corrugated steel shear panel installed in rc frames, Fifth International Conference on Urban Earthquake Engineering, Tokyo Institute of Technology, March, 2008.

- [16] 河野進: プレキャスト・プレストレストコンクリート部材を用いたコンクリート構造物の可能性, 日本コンクリート工学協会 九州支部総会特別講演, 2007.4.20.
- [17] Wang J., Kono S., Sakashita M.T.H.: A Multiple Macro Model for Reinforced Concrete Structural Walls with Openings, The 9th Japan-Korea-Taiwan Joint Seminar on Earthquake Engineering for Building Structures, pp. 63-72, 2007.
- [18] Oda M., Kono W.F.: Seismic Retrofit of RC Structures with Prestressed CFT and FRC Braces, The 9th Japan-Korea-Taiwan Joint Seminar on Earthquake Engineering for Building Structures, pp. 113-120, 2007.
- [19] Kono S., Ichioka Y., Ohta Y., Watanabe F.: Seismic Performance of Hybrid System with Corrugated Steel Shear Panel and RC Frame, The 9th Japan-Korea-Taiwan Joint Seminar on Earthquake Engineering for Building Structures, pp. 268-276, 2007.
- [20] Kono S., Ichioka Y., Watanabe F., Nishiyama M., A.S.: Damage Control System Using Prestressed Concrete Members with Graded Composite Strands, Third International Conference on Urban Earthquake Engineering, Tokyo Institute of Technology, March 6, 2006.
- [21] Kono S., Sakashita M., Wang J., Tanaka H.: Behavior of a shearwall and an adjacent frame considering vertical movement of foundations, Group Meeting on Reinforced Concrete Building at the 4th NEES/E-Defense Plenary Meeting, 2006.
- [22] Kono S., Sakashita M., Wang J., Tanaka H.: Experiment on shearwalls with eccentric openings, The Second NEES-EDEFENSE Workshop on Collapse Simulation of Reinforced Concrete Building Structures, Oct 30 - Nov 1, E-Defense, Kobe, Japan, pp. 221-228, 2006.
- [23] Sakashita M., Kono S., Watanabe F., Tanaka H., Murakami K.: Damage evaluation of multi-story shearwall with an adjacent frame considering uplift of foundation, The Second NEES-EDEFENSE Workshop on Collapse Simulation of Reinforced Concrete Building Structures, Oct 30 - Nov 1, E-Defense, Kobe, Japan, pp. 207-220, 2006.
- [24] Kono S., Watanabe F.: Seismic Performance of RC Structures Strengthened with Precast Prestressed Concrete Braces, The 8th Japan-Korea-Taiwan Joint Seminar on Earthquake Engineering for Building Structures, pp. 215-224, 2006.
- [25] Sakashita M., Kono S., Tanaka H., Watanabe F.: Damage evaluation of multi-story shear wall with an adjacent frame considering vertical movement of foundations, The 8th Japan-Korea-Taiwan Joint Seminar on Earthquake Engineering for Building Structures, pp. 131-140, 2006.
- [26] Ichioka Y., Kono S., Nishiyama M., Aranake S., Watanabe F.: Hysteretic characteristics of precast prestressed cantilever beams with graded composite strands, The 8th Japan-Korea-Taiwan Joint Seminar on Earthquake Engineering for Building Structures, pp. 1-9, 2006.
- [27] Kono S., Sakashita M., Tanaka H.: Lateral load resisting mechanism of a multi-story shear wall considering the interaction between a shear wall and peripheral elements, The First NEES/E-Defense Workshop on Collapse Simulation of Reinforced Concrete Building Structures, July, pp. 223-234, 2005.
- [28] Kono S., Watanabe F.: Seismic retrofit using precast prestressed concrete braces, The 7th Japan-Korea-Taiwan Joint Seminar on Earthquake Engineering for Building Structures, pp. 101-110, 2005.
- [29] Sakashita M., Kono S., Tanaka H., Watanabe F.: Lateral force resisting mechanism of a multi-story shear wall and peripheral members, The 7th Japan-Korea-Taiwan Joint Seminar on Earthquake Engineering for Building Structures, pp. 11-20, 2005.
- [30] Watanabe Y., Kono S., Nishiyama M., Aranake S., Watanabe F.: Seismic behavior of precast prestressed concrete members with graded composite strands, The 7th Japan-Korea-Taiwan Joint Seminar on Earthquake Engineering for Building Structures, pp. 83-89, 2005.
- [31] Bechtoula H., Sakashita M., Kono S., Watanabe F., Eberhard M.: Simulation of damage progression in lower stories of 11-story building, The 6th Japan-Korea-Taiwan Joint Seminar on Earthquake Engineering for Building Structures, 2004.
- [32] Sakashita M., Bechtoula H., Kono S., Tanaka H., Watanabe F.: A study on the seismic force resisting mechanism of a multi-story shear wall system considering the interaction between wall, slab, foundation beam, and pile elements, The 6th Japan-Korea-Taiwan Joint Seminar on Earthquake Engineering for Building Structures, 2004.
- [33] Bechtoula H., Sakashita M., Kono S., Watanabe F., Eberhard M.: Experimental and analytical study on 1/4 Scale reinforced concrete frames, The 5th Japan-Korea-Taiwan Joint Seminar on Earthquake Engineering for Building Structures, 2003.
- [34] Kono S., Tanaka H., Watanabe F.: Interface Shear Transfer for High Strength Concrete and High Strength Shear Friction Reinforcement, The 4th Japan-Korea-Taiwan Joint Seminar on Earthquake Engineering for Building Structures, 2002.
- [35] Kono S., Arai Y., Bechtoula H., Watanabe F.: Damage evaluation of reinforced concrete columns under large axial load and lateral deformation, The 4th Japan-Korea-Taiwan Joint Seminar on Earthquake

- Engineering for Building Structures, 2002.
- [36] Kono S., Sakashita M., Arai Y., Bechtoula H., Watanabe F.: Damage evaluation of reinforced concrete columns under large axial load and lateral deformation, US-Japan cooperation research on urban earthquake disaster mitigation Kyoto Grantees Meeting, 2002.
 - [37] Kono S., Watanabe F., Kajitani M.: Stress-Strain Relation of Confined Concrete under Dynamic Loading, The 3rd Japan-Korea-Taiwan Joint Seminar on Earthquake Engineering for Building Structures, 2001.
 - [38] Nishiyama M., Kono S.: Scale Effect on Flexural Compression Behavior of Reinforced Concrete Columns, The 3rd Japan-Korea-Taiwan Joint Seminar on Earthquake Engineering for Building Structures, 2001.
 - [39] Kono S., Watanabe F.: Damage evaluation of reinforced concrete columns under multiaxial cyclic loadings, The 2nd Japan-Korea Joint Seminar on Earthquake Engineering for Building Structures,, 2000.
 - [40] Kono S., Watanabe F.: Damage evaluation of reinforced concrete columns under multiaxial cyclic loadings, The 2nd US-Japan Workshop on performance based engineering, 2000.
 - [41] Kono S., Watanabe F.: Technical Briefings on Jiji Earthquake, The 1st Japan-Korea Joint Seminar on Earthquake Engineering for Building Structures, 1999.
 - [42] 日本建築学会: トルココジャエリ地震速報会, 1999.
 - [43] Kono S.: Seismic Retrofit of San Mateo-Hayward Bridge, Japan/China Enlarged Joint Symposium on Earthquake Engineering, 1996.